

著

者で、自分をブランドにしてしまった人は、小生の知る限り、中谷彰宏さんだけである。こういう場合、仮に著者がこの世を去っても、ブランドは残るのだ。

中谷さんは、本を売っているのではない。ライフスタイルを売っている。ほとんどの著者に、まだこういう考え方はない。

月に一〇冊前後の
新刊を出している。
小生の一〇年分を一
カ月で書いてしまっ
勘定になる。

既刊は五〇〇冊に
近づこうとしている。
こんなに量産できる
のは、竹村健一さん
と中谷さんぐらいな
ものだろう。

中谷さんが次々と
本を出せるのは、事
務所のスタッフが優
秀（本が売れる方向
がどっちだか知って
いて、中谷さんをサポ
ートできる）である
こと、各出版社の中
谷さん担当の編集者
も、その方向と中谷
本づくり方を熟知し
ているからだと思う。
つまり、すべてが売
れるように組まれて
いて、円滑に回って
いる。売れない本は、
出す意味がない。人
に読まれない本を出
してどうする。売れる
本がイイ本で



『キャバクラ嬢の私が口説かれた言葉』 中谷彰宏 総合法令出版 本体価格 1300円 11月8日発売予定	90 Point
『生きかたの可能性』 日野原重明 河出書房新社 本体価格 1200円 11月9日発売予定	90 Point
『中華連邦』 大前研一 PHP研究所 本体価格 1200円 11月6日発売予定	85 Point
『ボジンカ』 楡 周平 文芸春秋 本体価格 1762円 11月後半発売予定	80 Point
『えんや! 曳山が見た唐津』 金丸弘美 無明舎出版 本体価格 1600円 10月25日発売	75 Point

ただで、男はちょっと読んでみようと思う。「私が口説かれた言葉」は、人を説得する（墜とす）方法を学べるのと、興味津々ということもあって、男は思わず手が伸びる。また、女性も、どんなふうにも誘われるのかわかりたくて、読んでしまう。ベストセラーの方程式からいえば、「身近な恋愛」（キャバク

あることを、中谷さんはご存知なのだと思う。ベストセラーの方程式を身につけているのだ。「キャバクラ嬢の私が口説かれた言葉」（総合法令出版）こんな読みたくなるタイトルを、たやすくつけられるものではない。このセンスのよさが、中谷ブランドの中心部にある。「キャバクラ嬢の」と頭につく

養老孟司、渡辺淳一……とゴロカメンパー。「歳をとってからの、真に充実した生きかたの可能性を様々な探り出」している。ゲストの名前も手伝って、人はこの本の行列に並ぶ。90ポイント。「中台はいまや「ハネムーン」だノ」。台湾からの最新レポート+WTO加盟後の中国の動

ラのこと」と、口説くという「身近」、言葉という「短い」で必ず売れるのである。90ポイント。★日野原重明先生への行列は、だいたい長くなった。行列に一回並んでしまうと、もう一度、二度と並んでみたくなくなる。「生きかたの可能性」（河出書房新社）は、対談相手が、曾野綾子、橋田壽賀子、柳田邦男、

★佐賀の秋祭り唐津くんちは、華麗な一四台の漆の曳山が見事。曳山の視点で「各家庭の料理や器、戦前の唐津の町並み、三〇〇店もでる露店の仕切り方、神社の御神輿と早朝の獅子舞、曳山を塗り替える福岡県の伝統工芸職人など」を、三年がかりで約六〇人へのインタビュー、写真七一点で構成したのが、「えんや」（無明舎出版）。この努力の本は、売りたいノ 75ポイント。

向+ビジネストレンドを分析するのが、大前研一さんの「中華連邦」（PHP研究所）である。中台のことを知りたいという「身近」。最新の情報をレポートしているという「身近」。気になるビジネストレンドも、しっかり書いてある「身近」。大前研一さんの知名度と信頼度の高さ。このへんの条件が揃っていることで、安定して売れる。85ポイント。★「東京湾で巨大タンカーがジャックされた。謎のテロリスト集団に震撼する日米両国首脳。唯一の解決策は中性子爆弾の使用だが……」。国際謀略ミステリー「ボジンカ」（文芸春秋）は、楡周平さんの最新作。楡さんのミステリーは、読んでみると、ものすごい大きな音が聴こえてくる。快感とともにタノシメルのである。ファンが待っている。80ポイント。

新刊フラッシュ

「一男には男の家事がある」 沖しげる、沖幸子
プレジデント社 本体価格 四〇〇円
料理や家事・育児に目覚める男性が増えている。必要に迫られてという理由ばかりでないとところが潮流だ。本書は、家事経験ゼロの元キャリア官僚の夫が家事に挑戦、ベンチャー経営者の妻がそれをどう見守ったか、共同作業の極意が読み取れる。

「なまけることの幸せ」 ビーター!アクトスほか/大橋理一訳
集英社 本体価格 二二〇円
健康で長生き。やはりこれが一番だ。「何もしないこと」で生命力を節約する。「少食」で長生きする。ストレッチがエネルギーを浪費することを知らず、本気で豊かな生活とは何かが見えてくる。怠けの効用を語る本。

「ナカノ革命6688日」 田中康夫
扶桑社 本体価格 一三三三円
週刊「SPA!」で連載が続いている「愛の大巨玉」が三冊にまとまった。「話題の半分以上は、知事をも再び務めることになった長野県の話だが、それにとどまらない。ディテールにこだわった田中革命は、病んだ日本にこそ必要だからである。

「世界経済を読むキーワード56」 みずほ総合研究所
東洋経済新報社 本体価格 四〇〇円
一〇年どころか二年ひと昔の昨今、これだけ知っていたらというキーワードとは何か。とりあえず、銀行のシンクタンクが選んだ五六の言葉を覚えておけば安心できる。全項目にグラフやチャートが付いており、記述も平易で丁寧だ。

「一男には男の家事がある」 沖しげる、沖幸子
プレジデント社 本体価格 四〇〇円
料理や家事・育児に目覚める男性が増えている。必要に迫られてという理由ばかりでないとところが潮流だ。本書は、家事経験ゼロの元キャリア官僚の夫が家事に挑戦、ベンチャー経営者の妻がそれをどう見守ったか、共同作業の極意が読み取れる。